

意見交換会実施報告書

令和 6年 9月 3日

赤穂市議会議長 様

民生生活委員会委員長 榊 悠太

民生生活委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和6年 8月21日(水) 13時25分～14時50分
開催場所	赤穂市役所6階 第2委員会室
意見交換会テーマ	子育て応援隊の現状と課題及び赤穂市の子育て世帯のニーズについて
出席委員	代表者：榊 悠太 西川 浩司 司会者：荒木 友貴 前川 弘文 記録者：井田 佐登司 山田 昌弘
相手方団体名 及び参加者数	子育て応援隊 4名 保健センター所長兼児童発達支援事業運営管理者兼こども家庭センター統括支援員(オブザーバー) 1名
主な意見等	1. 活動の概要 <u>こんにちは赤ちゃん訪問</u> ◇第2子以降の児を中心に生後4か月までの乳児がいる全ての家庭を訪問し、子育て支援に関する情報提供を行うとともに、親子の心身の状況や養育環境の助言を行う。 <u>乳幼児健診未受診者訪問</u> ◇電話・文書等で受診勧奨を行っても健診を受診しない人に対し、子育て応援隊が訪問し、受診勧奨を行う。 <u>ベビーレッスン未参加者訪問</u> ◇ベビーレッスン未参加者であり、保健センターにおいても保健師が面接できない人を訪問し、児及び母親の様子を確認する。

2. 子育て応援隊からの意見・要望

- 家庭訪問については子育て応援隊の訪問先が、第2子以降の家庭なので特に問題がないところがほとんどで、形式的に予防接種や赤穂市の補助金などのお知らせをセットで持参している。
- 出産は病気ではないがダメージが大きいので、つらいときはつらいと言っていいんだよと伝えるようにしている。
(精神的につらいときは本音で話をしてほしい)
- 全国的に少子化の傾向があるといっても、中には5人ぐらい出産している家庭もある。子育てをしながら働く家庭が増えたことで保育所に対するニーズが高く、同じ保育所に兄弟姉妹で入所できないなどの困りごとを訪問先で聞くことがある。
- 初産の家庭や、過去何らかの相談事例があった家庭は保健センターの職員(保健師など)が優先して分担されているため、基本的には問題がないところが多い。
- 出産したときには平和で穏やかであるが、幼稚園に行く頃に家庭全体のフォローが必要な場合もあると思う。
- 幼稚園児3人ぐらい抱える家庭を訪問したことがあり、生活できているか、ネグレクトはないのかといったフォローが必要だと感じたケースもあった。
- 担当としては、赤ちゃん訪問は年2回位、第2子以降の子どもさんを対象に訪問している。子育て応援隊のメンバーには、担当エリアがあり、対象の家庭数により訪問数に差がある。
- 赤穂市では子どもたちが遊ぶ場所が少ないと感じている。特に地域によっては児童館もなく室内で遊ばせることが出来ないところもある。子育てをしても、気が抜けないと感じる。
- 他市では駅の近くに祖父母が孫を連れて行ける室内施設があり、赤穂市でもそのようなところがあれば助かると思う。

3. 委員から質問・応答

- ①家庭訪問は一人で訪問するのですか。初対面でお互いためらうことなく訪問できるのですか。
- 訪問前に保健センター(保健師)から連絡が入っているので大丈夫である。

○坂越地区は、ハイツ（アパート）も増え、表札が出ていないため訪問先がわかりにくい場合もあるが、ご近所さんに聞いて訪問できている。近隣に伺う中で親子関係などの情報も分かることがある。

○相手方と連絡を取るときは、固定電話から連絡するようにしている。携帯電話だと知らない番号には出ない方が多く、つながりにくいことがある。電話がつながれば、快く面会してくれるケースがほとんどである

○家庭訪問の受入れに前向きでない家庭には、国からの出産・子育て交付金などの支援に関する説明をする等、話を聞いてもらいやすいよう工夫している。

②子育て応援隊のメンバーそれぞれが、どれぐらいの訪問件数を担当しているのですか。

○訪問件数は減ってきている。

○今月は3人相談を受けている。1か月健診前後に訪問している。生活面での相談はほとんどない。

③他の市町から転入された母子の場合に気を付けていることはありますか。また、難しいケースに出くわすこともあるのでしょうか。その時の対応もあれば教えてください。

○ファミサポの利用を勧めている。また、子育て応援隊サロン、こんにちは赤ちゃん訪問やキッズサロンを提案している。

○市民会館で開催されているおれんじの木や児童館、図書館の読み聞かせなどを紹介している。

○基本、乳幼児健診等未受診者の場合、赤ちゃん訪問の日程が合わず家庭に行けない場合でも、保育所に行っていることが確認できれば、保護者に連絡をし、一番良い方法で訪問などを行うようにしている。

○未受診者の場合は、家庭への訪問時にアンケート用紙を渡そうとしても、玄関から中に入れてくれない時もある。

○未受診者の方の中には、健診に行かなくてもよいと認識している人もいて対応が難しいときもあり、地区担当の職員に引き継いでフォローしてもらっている。

○夜にしか自宅に帰って来られないケースもあり、遅くなる場合は職員に引き継いでいる。

	<p>④乳幼児健診未受診者への訪問頻度と感想はどうか。</p> <p>○ほとんどが『こんにちは赤ちゃん訪問』の第2子以降の1か月健診前後と限定されていたため頻度に関する感想は特にない。</p> <p>○健診未受診者に対しては保健センターから訪問依頼があれば伺い、同じ家庭に継続訪問することはない。</p> <p>○健診から足が遠のく家庭には、保健センターの職員が訪問するようになっており、困難事例に出会うことが少ない。</p> <p>⑤子育て応援隊の方が各家庭を訪問するときに、市から配布される資料等一式を持参されるとのことですが、新たに必要と思われる資料などはありますか。</p> <p>○基本的には現在子育て支援関連のパンフレット等が一式セットされているものを持参するので足りている。医療相談など専門分野の質問については、保健センターに引き継ぐようにしている。</p> <p>⑥子育て応援隊の方は、地区ごとの担当の割振りがあるようですが、地区を超えての情報共有や最新の虐待案件対応などの研修といった自らのスキルアップをする機会がありますか。</p> <p>○2か月に1回連絡会議がもたれており、そこで子育て応援隊同士で情報交換を行ったり、共通の研修を受けてスキルアップを図っている。</p> <p>⑦保護者との関係は1回きりで終わるのですか。</p> <p>○基本的に一回で終わる。</p> <p>⑧1か月に何回くらい仕事がありますか。</p> <p>○月に2～3回、健康診断の手伝いやバンビクラブの手伝いがある。午前・午後など仕事がしやすい時間帯で子育て応援隊の中で役割の調整がされている。</p> <p>⑨子育て応援隊の任期はどれくらいですか。また、人数としてはどうか。</p>
--	---

	<p>○基本3年ですが、長い人は10年続けている。</p> <p>○子育て応援隊の定員は9名であるが現在7名で、不足している。</p> <p>○保健師の方とペアで各家庭を訪問出来たら先方も安心されて良いと思うが、保健師も人手不足の状態である。</p> <p>⑩子育て世帯のニーズはどのように感じられていますか。</p> <p>○担当地区では希望する保育所に入れたらというニーズと育休退園に対する希望を伺っている。</p> <p>○ファミサポはあまり活用していないようである。近所に友人や、親御さんがおられるケースが多いことが理由のようである。</p> <p>⑪訪問時に気を付けていることはありますか。</p> <p>○プライベートには踏み込み過ぎないようにしている。</p> <p>○しゃべりすぎないようにし、聞く立場に回っている。</p> <p>○ご主人が夜勤をされている場合には、訪問時間の希望を聞き、できる限り負担を与えないようにしている。</p> <p>○最近の傾向として、子育て応援隊の訪問時に夫、祖母と一緒に聞いてくれるケースが増えてきている。</p> <p>○夏休み中など、上のお子様がお在宅である可能性が高い時期には、先方が落ち着いて話せる時間に訪問する等配慮している。</p>
委員会のコメント	<p>○現状、子育て応援隊の人数が定員未満であるため、少なくとも地区ごとに担当できるよう人材発掘が必要だと思う。同時に、保健師の負担も相当なものがあることが伺えたので、切れ目ない支援のために保健センター機能全体の底上げが必要である。</p> <p>○子育て応援隊の方が各家庭を訪問されるのは、基本的に第二子以降の1か月健診の前後に1回きりと限定されている。何らかの困難を抱える家庭については、事前に職員が担当するように保健センターで分担がなされており連携は取られているが、元気な方でも子育てに不安を感じる場合もある。訪問</p>

	<p>先の希望にもよるが、身近な相談者として一つの家庭に継続して子育て支援員も関わられるようにする方が良い場合もあるのではないかと感じた。</p> <p>○子育て応援隊の活動を通じて、保育所（兄弟姉妹がいる場合の同じ保育所への入所希望、育休退園など）に対するニーズを多く聞くとのことである。また、室内で安心して子どもや孫を遊ばせられる施設があれば有料でも利用したいという声もあり、小さな月齢の子どもを抱える家庭の切実な希望になっている。市もこれらの子育てに関わるニーズをしっかりと受け止め改善に努めていただきたい。</p> <p>○子育て応援隊の訪問時に対応する人は、以前は母親だけだったのが、今は父親や祖母も加わり各家庭の協力状況も変わってきているそうである。市からの配布物に過不足は特にないとのことであるが、より父親向け、祖父母向けなど支援者に伝わりやすいように資料や同封物の内容を工夫することで子育て環境の改善も図れるのではないかと思う。</p>
--	--